



学生の学生による学生のための教養講座

2023年度活動レポート

～けいはんな科学コレクションと実行委員会のあゆみ～

公益財団法人 国際高等研究所

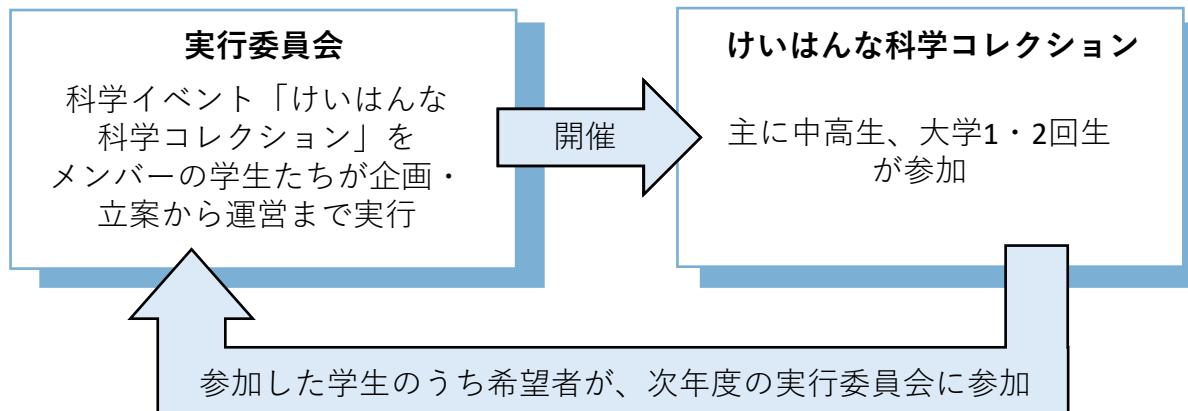
●学生の学生による学生のための教養講座とは

学生の学生による学生のための教養講座は、国際高等研究所の人材育成事業で、若い世代向けの科学イベント「けいはんな科学コレクション」とイベントの企画・運営チーム「学生の学生による学生のための教養講座・実行委員会」の2つのプログラムで構成されます。

●プログラム概要

	実行委員会	けいはんな科学コレクション
対象	大学生、大学院生	中高生、大学1,2年生
目的	(右の目的に加えて) ・自ら主体的に考え、実行する機会の提供 ・多様な人材と交流する機会の提供	・社会課題科学、技術に関心を持つ機会の提供 ・自分の将来の選択肢を考える機会の提供
実施時期	半年間 (2023年度は、2023年9月～2024年3月) ・実行委員会ミーティング9回 ・研究者インタビュー6回 ・けいはんな科学コレクション開催	年1回 (2023年度は、2024年3月20日)

●実行委員会とけいはんな科学コレクションとの関係 (将来構想)



●活動レポート

このレポートは、実行委員会に参加した学生の皆さんが自ら企画し、制作しました。いわば、実行委員会メンバーの卒業記念アルバムです。それでは実行委員会メンバーの半年間のあゆみをお楽しみください。



●自己紹介●

実行委員会 顧問兼マネージャー 松井 利喜
公益財団法人国際高等研究所所属
学生の学生による学生のための教養講座企画担当

●感想●

1年ほど前年、2023年4月に私は次のように考えました。「自分たちで企画をゼロから考え、自分たちの手でイベントを実現したい。」と思っている学生がきっといるはずだ。

3カ月ほどの準備期間を経て、同年7月に募集を開始すると、20名近い学生たちが応募してくれて、9月に「学生の学生による学生のための教養講座」実行委員会 はスタートしました。初めての試みであり、イベント実現まで、途中はいろいろな困難もありました。しかし、学生たちは、私の予想以上に、熱意と実行力がありました。2024年3月20日に開催した「けいはんな科学コレクション」は、協力していただいた研究者の方にも、中高生をはじめとする参加者にも、とても楽しんでいただけたと思います。何より、私がいちばん感動しました。

けいはんな科学コレクションは実行委員会活動の集大成でしたが、このまま終わらせてはもったいない。今は、実行委員会メンバーとの再会を楽しみに、次回の企画を考えています。



●自己紹介●

実行委員会 事務局担当 藤井 滋
2023年11月から 公益財団法人 国際高等研究所に所属
現在は同研究所 総務部長

●感想●

私は、イベントの補助者として短期間の参加となり、あまり貢献はできませんでしたが、学生の皆さんと一緒に活動できたことは私にとって楽しく有意義な経験になりました。

還暦を過ぎた「昭和世代」の私から見ると、学生の皆さんはITやスマホをスイスイと使いこなし、やる気に満ちていて非常に熱心に取り組んでくれました。全員が将来に対して素敵な夢を持っていて、若い志が頼もしく眩しく感じました。また互いに優しく相手を思いやり、優れたチームワークで企画が進んでいく姿に感動しました。私自身も少し若返れた気がします。皆さん、頑張ってください感謝をありがとうございました。

活動スケジュール

私たちが約半年間、
どんなことをしてきたのかを紹介します！

学生の学生による
学生のための教養講座
実行委員会
メンバー募集

7/26-8/25
メンバー募集・選考

p.5-9の自己紹介ページで
参加を決めた理由等
紹介しています

7-8
月

9/12

キックオフミーティング

- ・自己紹介
- ・ガイダンス
- ・施設案内

9
月

10/5, 6

京都スマートシティエキスポ2023

9/27

第1回ミーティング

- ・今後の流れ
- ・イベント案の会議
- ・インタビューに行きたい研究者の投票

10
月

10/30

第2回ミーティング

- ・目的やターゲット層決め
- ・高校生向け/大学生向けのイベントを作成するためにグループ分け
- ・懇親会

懇親会☆

1/22

役割分担
スプレッドシートで進捗を
確認できる状態に

1
月

それぞれ忙しい時期等もありましたが
協力して完成を目指しました



11
月

- 研究者インタビュー
- 10/18 榊先生
 - 10/27 大竹先生
 - 11/2 渡辺先生
 - 11/6 松原先生、久保先生
 - 11/7 庄田先生、前田先生
 - 11/9 武田先生

1/31 2/21 2/29

オンライン会議や
先生方との打ち合わせ



2/19

広告チラシとサイトが完成

ミーティングの
頻度は基本1か月に1回で
イベント前は多くしました

2
月

役割ごとに作成していく

詳しくはp.3

12
月

11/20

第4回ミーティング

企画を具体化させ、
企画書も作成

12/4

第5回ミーティング

12/5~12/18
Instagramでメンバー紹介

3
月

準備や当日の役割は
事前に相談して決めました

3/4. 6. 19



詳しくはp.3

4
月

4/8, 5/5
レポート作成

楽しい思い出が
たくさんできました！

はじめに

活動
スケジュール

KKC
当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

KKC当日の流れ

前日 会場設営・リハーサル



本番を思い浮かべながら行いました。みんなドキドキしながらの前日準備で、細かいところまでしっかりチェックしました！（植田）



照明やスクリーンの操作、誘導方法などを確認しながらリハーサルを行いました。メンバーと先生方の名札作成も行いました。（山本）

10:00 KKC開始！

受付では、来場者に館内マップと、特典のオリジナルボールペンをお渡ししました。たくさんの方を案内できました！（田邊）



当日まで何人参加してくれるかわからず、不安でした。10時以降続々と参加者が来てくれて、とても嬉しかったです。（三本）



10:30 サイエンスレクチャー ※詳しくはp.14



久保先生をお呼びして、講演会を開催しました！学生を中心に、幅広い世代の方が来てくださり、とても楽しい時間となりました。（植田）



おすすめ本などを配置し、リラックスした雰囲気を作り出せました。狙い通り、先生方と参加者とのコミュニケーションも実現し、僕自身、とても良い時間を過ごせました。（篠原）

13:00 研究者リアル対談 ※詳しくはp.14

研究の未来と、研究者という仕事の魅力について、引きだそうとしました。質疑も活発で、先生方とメンバーのおかげで、良い対談になりました。（三本）



試食会は結構盛況だったと思います。ただしレベル3の食品が少し足りなかったみたいでちょっと残念でした。（李）



17:00 KKC終了！



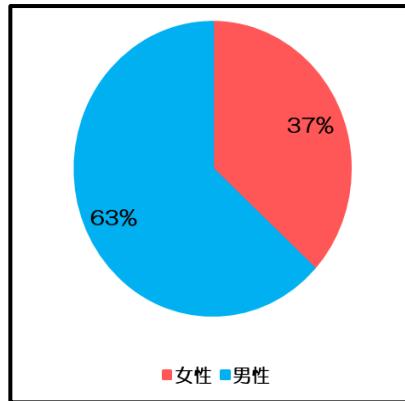
1から作ったイベントが終了！達成感と嬉しさで心がいっぱいでした。仲間と共に素敵な打ち上げも！乾杯！（東）



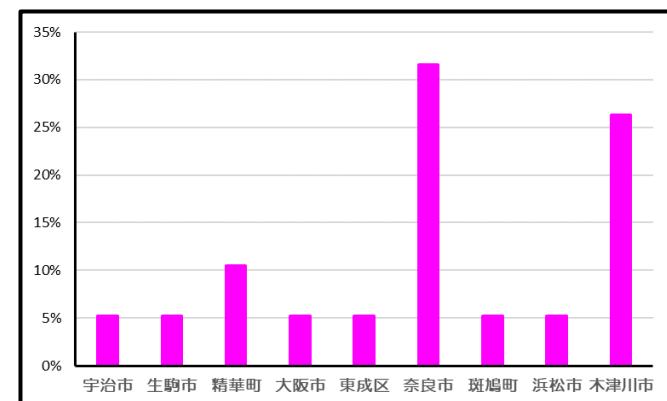
もともと個人的な要望としてはみんなで一緒に餃子でも作ろうかなと考えていました。きっと楽しいし。残念なことにできなかったですね。（李）

来場者アンケート

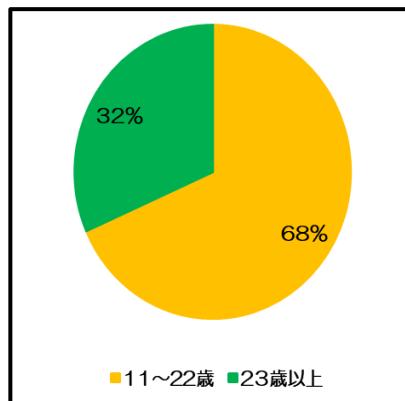
性別を教えてください。



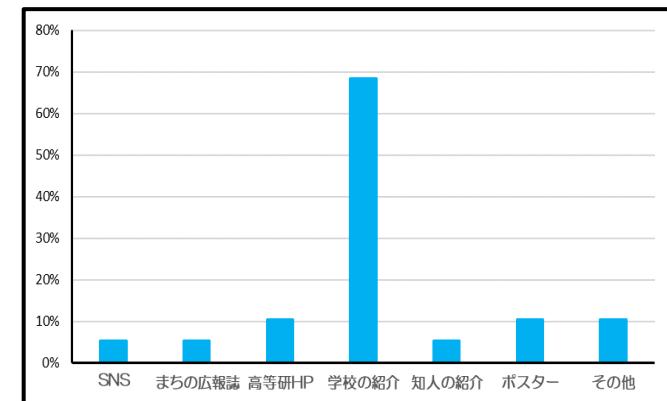
お住いの地域を教えてください。



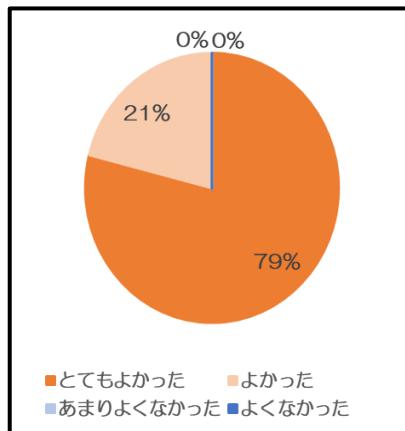
年齢を教えてください。



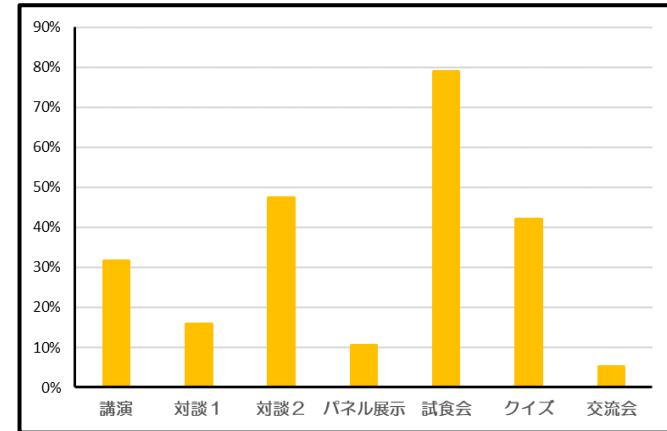
どのようにして知りましたか？（複数選択可）



感想をお聞かせください。



どの企画が面白かったですか？（複数選択可）



来場者の声

よく前を通る時に何をしているところなのかなと思っていたので、見学できて良かったです。

ロボットや昆虫食の見方が変わった。

私が質問したことに対し、とてもわかりやすい回答をいただいていたありがとうございました。

はじめに

活動
スケジュール

KKC
当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

作成物と作成担当者からのコメント

広告チラシ

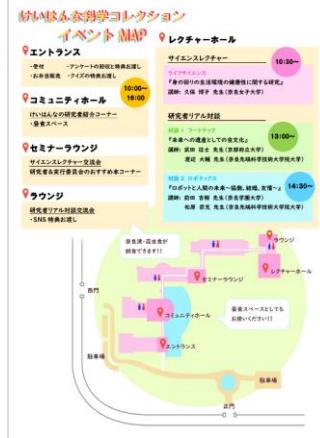


できるだけポップでわかりやすい内容にすることで、中高生がハードルを感じずに参加しようと思ってもらえるようにデザインしました。楽しい科学イベントだと視覚的に伝わることを意識しました。(東)

来場者アンケート

初回実施だったこともあり、来場者がどのように感じたか不安でしたが、思いのほか好評だったので良かったです。実行委員会では考え付かないようなご指摘もあり参考になりました。(大谷)

イベントMAP



広告チラシやロゴシールと配色を合わせて、配布物にも統一感が出るように、また、どのイベントに来られた方にも分かりやすいように、意識して楽しく作りました。(田邊)

KKC!クイズ (冊子)



研究所内やけいはんなのことをできるだけ楽しく知ってもらえるように作りました！メンバーの意見も取り入れたポップなクイズにできて、よかったです。(篠原)

研究者紹介パネル

※詳しくはp.14~17



パネルデザイン (山本)
→テーマの1つ「研究者をもっと身近に」という思いで企画しました。できるだけ多くの方に足を止めてもらえるよう、ポップなデザインを目指しました！

ロードマップ (大谷)
→先生方からいただいたデータをもとに編集を行いました。すべての先生が、予想していた以上にたくさんのエピソードを下され、見ごたえのある内容になったと感じています。編集中でも先生方の人間性が伝わってきて楽しく取り組みました。

来場者特典 (4色ボールペン)



手に取った方にイベントの存在を知っていただけるように作成しました。印刷する文字列や色にこだわったおかげでいいデザインになったと思います。(山中)

クイズ正解者特典 (ロゴシール)



広告チラシの「KKC」(東さん案)をいかしてデザインしました。ロゴ作成は難しかったですが、皆さんの案で発注してくれて素敵なステッカーになりました！(山本)

おすすめの本紹介



交流会で話が生まれるきっかけになるようにという思いから作りました。本のジャンルや系統を指定せずおすすめ本を募集したことで、幅広い分野のおすすめ本が集まりました。(田邊)

試食会POP・感想コーナー



昆虫食や奈良漬の魅力をお伝えするために作成しました。リアクションシールを貼る部分に色々な反応や感想があり、試食会をきっかけに参加者の方同士の交流が弾んでよかったです。(山中)

SNS



@IIAS_LINE



@IIAS_KKC



@IIAS.JP_OFFICIAL

はじめに

活動スケジュール

KKC 当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

メンバー自己紹介

プロフィール



氏名 田邊 瑞歩
 所属 京都府立大学 文学部
 学年 2年

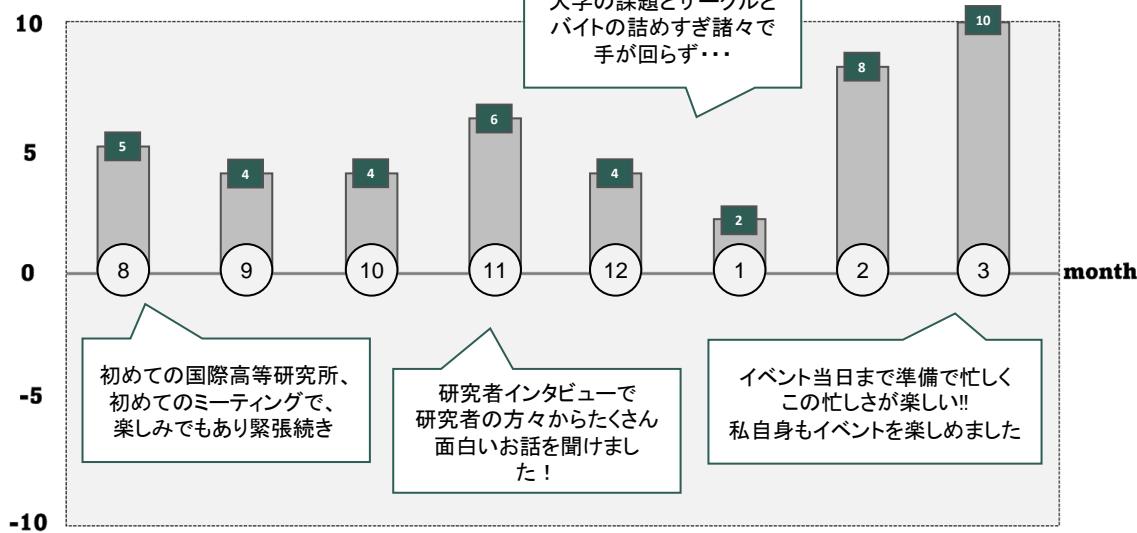
自己紹介

3回生になっても毎日授業とバイトを詰め込んでいます。最近ゼミが始まりました...お菓子とお茶が好きで、パン屋開拓が趣味です。

参加した動機

高等研究所の近くに住んでいて、けいはんなと高等研究所の活動に興味があったから。また、新しい環境に挑戦してみたいと思ったから。

私のモチベーション



活動の感想

この活動に参加できたことで、自分の家の近くにあるけれどどんなことをしているんだろうと思っていた国際高等研究所に入ることができ、面白くて頼れる実行委員会メンバーと、「けいはんな科学コレクション」というイベントを一から企画し、今度は自分たちが国際高等研究所に人を呼び込むという経験ができました!

プロフィール



氏名 植田 晶菜
 所属 奈良女子大学 生活環境学部
 学年 3年

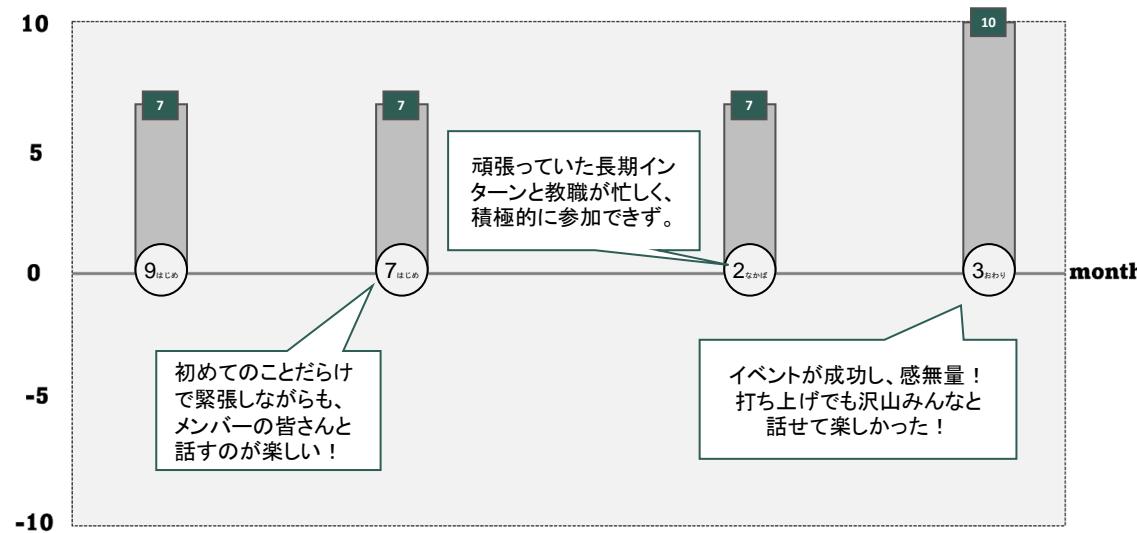
自己紹介

人と話すこと、新しい場所に行くことが好きです! 大学では教育とジェンダーに関する研究をしています。

参加した動機

皆で一つのイベントを作り上げることと、自分と違う分野を学ばれている人と交流できることに魅力を感じ、参加を決めました。

私のモチベーション



活動の感想

イベントの計画段階から色々なことに挑戦させて頂き、この半年間はとても楽しい時間でした。活動を通して印象的だったのは、議論が煮詰まったときに皆で一生懸命考えたことと、職員の方々や先生方がそんな私たちを見ながら沢山アドバイスを下さったことです。イベント後には、今回出会えた皆さんとまた何かワクワクするものを作りたいな! と思っていました。ご迷惑をおかけしたことも多々ありましたが、それでもメンバーと一緒に活動して下さった皆様には感謝の気持ちで一杯です。大学生活の中で貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました!

はじめに

活動
 スケジュール

KKC
 当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

メンバー自己紹介

プロフィール



氏名 大谷 水都
 所属 京都府立大学 生命環境学部
 学年 3年

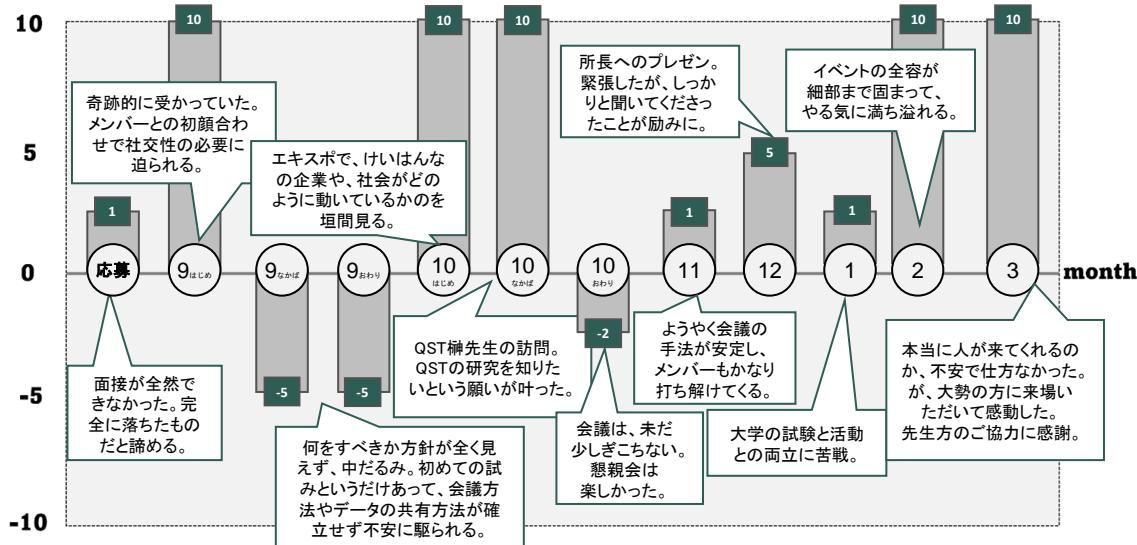
自己紹介

大学では、量子ビームを使った低エネルギー領域の核反応について勉強しています。
 この活動で社交性が身についたと自分では思っています。

参加した動機

学生時代に熱心に取り組めるものが欲しかった私にとって、住んでいる学研都市で、最先端の研究を知りながら活動できるという点が魅力的でした。

私のモチベーション



活動の感想

大学や学年の異なるメンバーと、話し合いながらを進めていくという経験は、他の活動ではできない貴重なものでした。この活動は、基本的に会議への強制参加はありません。自分のスケジュールを管理しながら、時間を見つけて取り組む必要があり、それなりに大変でしたが、主体性を身につけるには最高の環境でした。また、会議ではメンバーと楽しく議論できたということが活動の励みになったと思います。参加を考え中の方がいればぜひ一緒に活動しましょう！

プロフィール



氏名 山中 綾華
 所属 大阪大学 基礎工学部
 学年 3年

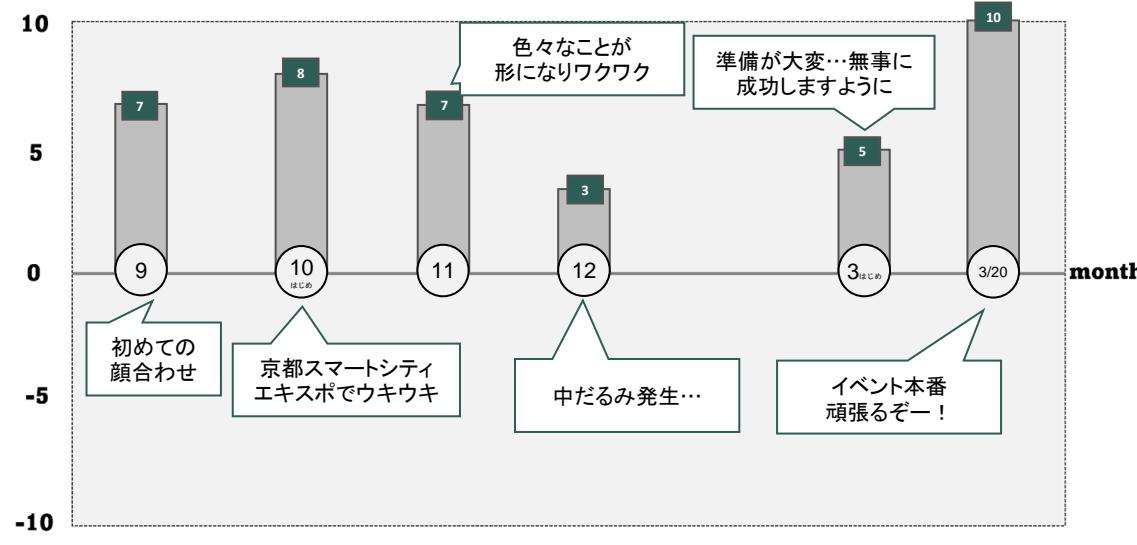
自己紹介

大学ではコンピューターサイエンスを勉強しています。かわいい洋服・アクセサリー集めと絵を描くことが趣味です。

参加した動機

バックグラウンドの異なる同年代の方とイベントを作り上げることに興味を持ち実行委員会に応募させていただきました。

私のモチベーション



活動の感想

半年間という短い期間でしたが、よりよいイベントを作り上げるために重ねた議論や準備が大変だったものの、楽しかったです。イベントの立案から実行までの一連の流れを知ることができ、貴重な体験ができました。高等研の方や実行委員会の皆さん、半年間本当にお世話になりました。また一緒にできれば嬉しいです。

はじめに

活動スケジュール

KKC 当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

メンバー自己紹介

プロフィール



氏名 川窪 紀志
 所属 同志社大学
 理工学部
 学年 4年

自己紹介

普段は大学で、機械についての研究をしています。人と話すことが好きです。自分と違う分野の人との話が一番面白いと思っています。

参加した動機

大学内で出会うことのない人との関わりを通して、様々な価値観や思考に触れることができる機会だと感じたから。

プロフィール



氏名 篠原 直生
 所属 神戸大学
 国際人間科学部
 学年 4年



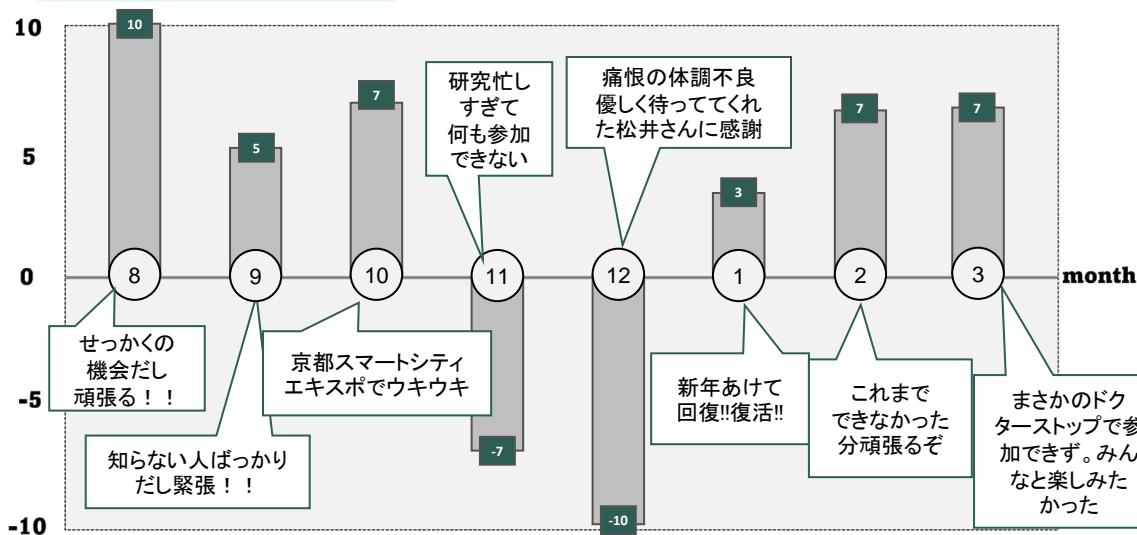
自己紹介

10年間陸上部で800mという競技をしていました。奈良県出身ということもあって、大学では「走る鹿」と呼ばれていました。昔から星空が好きで、現在は月についての研究をしています。

参加した動機

地元である京阪奈地区を盛り上げたいという気持ちがあったこと。同世代のコミュニティを大きくしたいと考えていたこと。

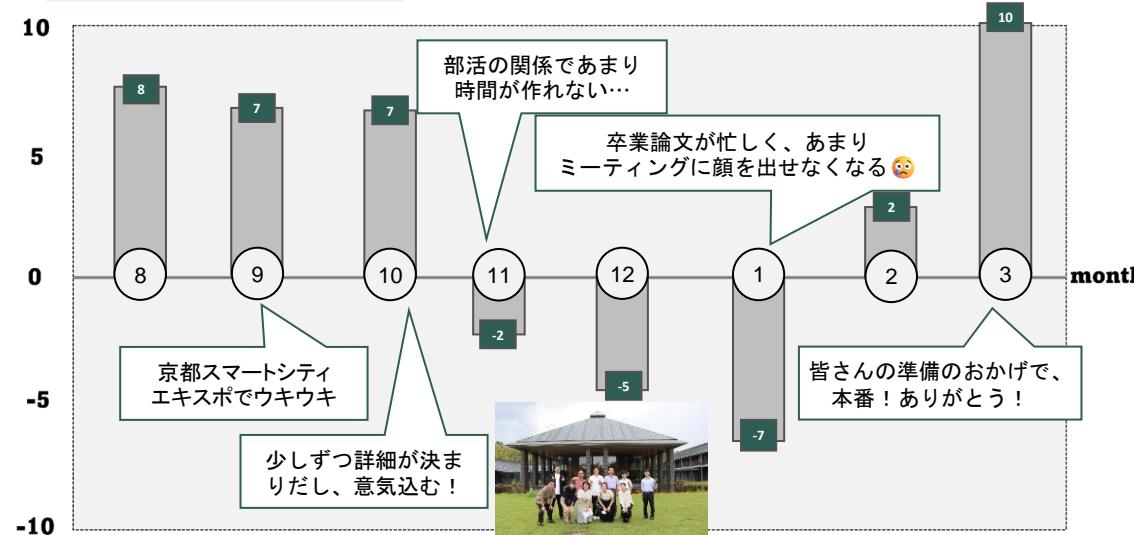
私のモチベーション



活動の感想

一連の活動を通して、他の委員会メンバーに迷惑をかけてばかりでした。そんな中でも、実行委員会のメンバーは常に明るく迎えてくれて、とても楽しい時間を過ごすことができました。イベント企画の中心や当日の運営には関わることができませんでしたが、実行委員会では、チームワークの大切さを知ることができました。また、何気ない会話の中で様々な知識を得ることができました。

私のモチベーション



活動の感想

半年という短い期間でしたが、バックグラウンドの違うものの、けいはんな地区にゆかりのある同世代の皆さんと一つのイベントを作り上げた時間は他では経験できない、とても価値のあるものでした。自分自身もイベントが作られている過程を学びながらチームで動くことの大変さと素晴らしさを知ることができました。また、これから研究の道を志す上で、今後不安を覚えていた自分にとっては、さまざまな分野の研究者の方々が苦労もありつつ、ご自分の研究に自信を持ってらっしゃる姿に励まされました。

はじめに

活動
 スケジュール

KKC
 当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

メンバー自己紹介

プロフィール



氏名 東 和佳奈
 所属 神戸大学 国際人間科学部
 学年 4年

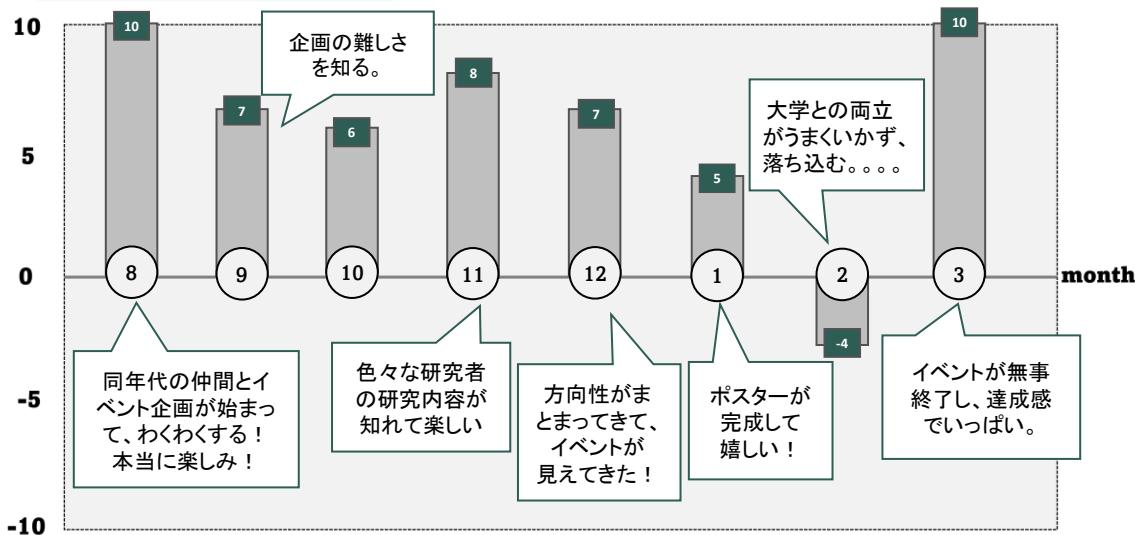
自己紹介

大学では、教育の観点から途上国開発を研究しています。映画を見るのが大好きです！

参加した動機

イベントを一から作ってみたいかったことと、同じ学生にけいはんなの科学者たちのことを知ってもらいたかったからです。

私のモチベーション



活動の感想

普段違う学校で、違う分野を専攻しているメンバーと、何を伝えたいのか、何を提供できるのか、そういったことを考えながら一つ一つ問題を解決し、イベントを作り上げるのは本当に楽しく、かけがえのない経験でした。また、けいはんな学研都市で何が行われているのか、日々研究者の方々がどういったことをされているのか活動を通して知ることができて勉強になりました。初めてのことも多く、課題もいろいろ見つかったので、次回に活かしたいです。

プロフィール



氏名 三本 勇貴
 所属 京都大学 農学研究科
 学年 修士1年

自己紹介

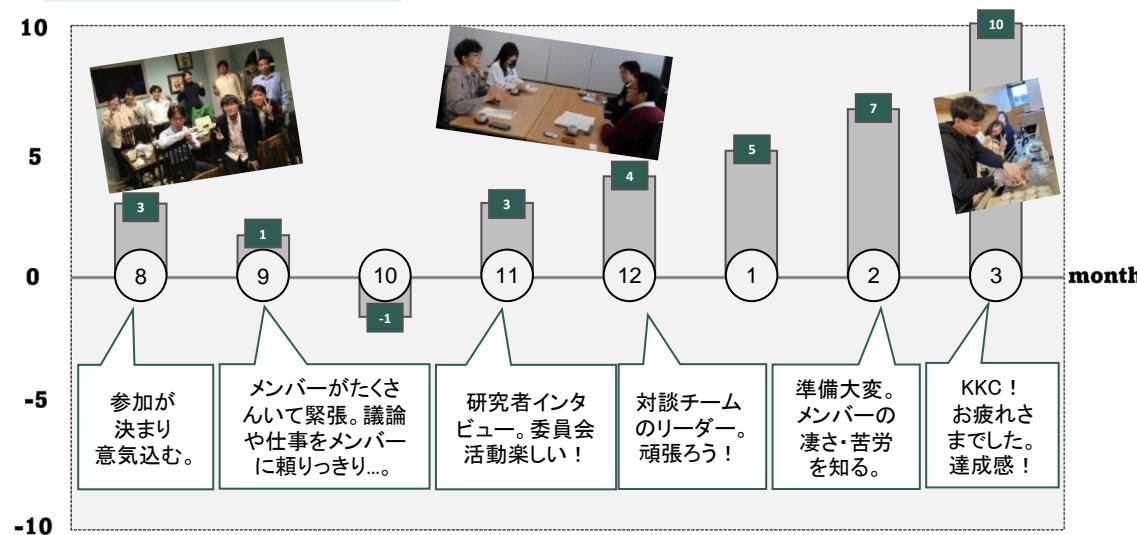
大学では木🌳と宇宙🌌の研究をしています。好奇心が旺盛で、色々手を出します...。寝ること、食べることに、本を読むことが好きです！

参加した動機

多様なメンバーたちと一緒に主体的に作り上げて、科学技術を社会に発信できる&研究者、研究機関について深く知る機会だと感じたから！



私のモチベーション



活動の感想

普段交流出来ないような個人的で熱心な委員会メンバーと、正解や参考のない初めての挑戦が出来てとても良い経験になりました。素晴らしい委員会メンバーのおかげで、イベントが非常に良い物になっただけでなく、僕自身の理解と成長にもつながりました。凄くて、信頼できて、楽しい委員会メンバーの皆さんがいたからこそ、僕も頑張ろうと思えることが出来ました。また日々挑戦し続けている研究者の方々と交流も魅力的で、研究者としての生き方や考え方について知れて、進路選択の時期に非常に有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

はじめに

活動スケジュール

KKC 当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

メンバー自己紹介

プロフィール



MOMOCHI

氏名 山本 桃花
 所属 奈良女子大学
 人間文化総合科学研究科
 学年 修士2年

自己紹介

大学では織毛虫の有性生殖について研究しています。博士課程に進学しました(2024.4~)。いろんなことに挑戦したいし、やると決めたことは最後までやり遂げたい。

参加した動機

企画、運営、研究者訪問、広報等やってみたかったことを異分野の同世代の方たちと協力できる活動だったからです。(叶いました)

プロフィール



氏名 李 仲萃
 所属 奈良先端科学技術大学院大学
 先端科学研究科
 学年 博士3年

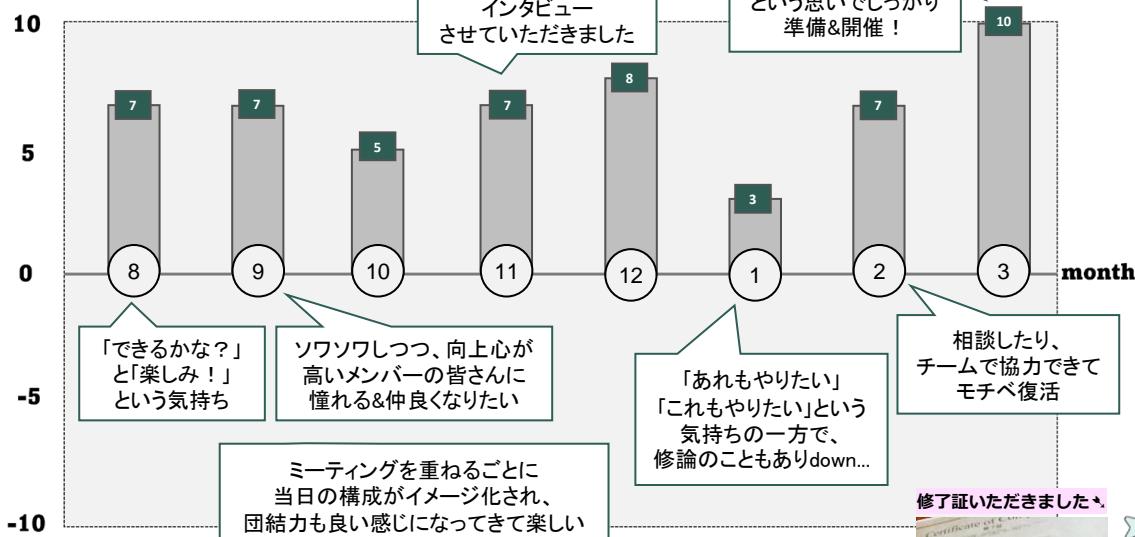
自己紹介

日本語、英語、中国語、C言語を話せる帰国子女(大嘘)です。お酒を飲みながら話しましょう。

参加した動機

仲間と一緒に悩んだりして困難を乗り越えるのは好き。

私のモチベーション



活動の感想

このような機会がないと経験できなかったことも多く、貴重な半年間でした。どのように動いていけばいいか悩んだこともありました。皆様と協力しながらより良いものを作っていき工程がとても楽しかったです。研究者の方々をはじめ、様々なバックグラウンドを持つ皆様との関りは、新鮮で、たくさんの刺激を受けることができました。引き続き、良いイベントを開けるように頑張りたいです!

プロフィール



氏名 福村 健人
 所属 同志社大学
 生命医科学部
 学年 4年

参加した動機

さまざまなバックグラウンドの人が、一つの目的に向かってことを進めることは、なかなかない経験だと思ったから。

その他メンバー

石田 奈々子	京都薬科大学	薬学部	6年
伊藤 海希	京都大学	農学研究科	修士1年
北谷 大樹	京都大学	農学部	4年
吉井 伶奈	大阪大学	人間科学部	1年

はじめに

活動
 スケジュール

KKC
 当日の流れ

作成物一覧

自己紹介

寄稿文

資料

▶活動を支援してくださった関係者の皆さまより



国際高等研究所 所長

松本 紘 先生

実行委員会に参加された学生の皆さん、お疲れ様でした。大学内では、学生が企画から実施までを主体的に行う活動、大学・学年が異なる学生たちが共同で行う活動などはなかなかありません。国際高等研究所ではBeyond Boundariesの理念のもと、所属機関、専門分野、世代、国籍などの枠を超えた充実した議論と交流の場を提供しています。今回の活動は皆さんにとって有意義であったと思います。参加された皆さんが、将来、さまざまな分野で活躍されることを楽しみにしております。



国際高等研究所
主席研究員

鈴木 晶子 先生

3月20日のイベント「けいはんな科学コレクション」が終わったあと、会場を後にした若い参加者らが、楽しそうにスキップしながら、感想を語り合っている姿を偶然見かけました。大学生や高校生だけでなく、小中学生の姿も会場で見かけました。ご家族での参加もあったようです。企画から実施まで熱意をもって取り組まれた学生の方々、お疲れ様でした。また登壇いただいた研究者の方々それぞれが研究に臨む、その誠実さや思いがひしひしと伝わる場でした。なぜ自分はこのテーマに魅力を感じているんだろう？なぜ、ここまでこだわってこの研究に自分は長年取り組んできたのだろう？と、研究者として自分の原点に立ちかえるひとときを過ごさせていただきました。場が生み出す力のなせるわざともいえますが、長い準備期間をかけて丁寧な場を作り上げてこられた実行委員会の皆様がこの思いの結晶だと思えます。このエネルギーがさらなる展開に繋がっていくことを祈念しています。



国際高等研究所
客員研究員

駒井 章治 先生

未来を担う当事者として、何を学び何を伝える必要があるのかを見定め、後進に科学や技術の愉しさ、特に「けいはんな」エリアで繰り広げられている事柄にフォーカスを当てて広く知らしめてくださったことは今後のけいはんなエリアの発展に少なからず影響をもたらしてくれたことと思います。まだまだ若い皆さん、今回の事業を機会に皆さん自身が益々発展されることを心から願っておりますし、このけいはんなの地がそういった活動を育める地となるよう一層進めていければと思います。



国際高等研究所
客員研究員

加納 圭 先生

国際高等研究所に若い人達がやってきた！これが初回のミーティングでの最初の感想でした。普段は大学教員をやっているの大学生が珍しいわけではないのですが、国際高等研究所の所内に大学生がたくさんいる様子は新鮮でした。しかもその若者達がもっと若者に向けたイベントを開くというのを聞いただけでワクワクしていました。とはいえ、実際にイベントを企画して運営することは大変で、良い意味で試行錯誤していた様子が印象的でした。例えば、イベントの目的について対話をし、色々と紆余曲折ありながらも最終的に「未知を探究する喜びと身の回りに知識が溢れていることを思い出してもらい、学ぶことの楽しさを再発見してもらうこと。」という目的を設定していました。イベント名1つとっても様々な案が出てきており、「けいはんな科学コレクション (KKC)」というみんな納得の名称に辿り着くまでに試行錯誤がありました。しかしながら、このような試行錯誤のプロセスがあったからこそ、みんなが「自分事」として捉えて主体的に動けるイベント企画・運営になったのだらうなと思えました。また、それが今回の成功につながったのだと確信しています。イベントを終えたら終わり。とならずにこのような素敵な報告書をまとめているところも素晴らしいと思います。ジェンダーバランス・地域バランス・国際バランスに優れた今回のチームが、みなさんにとって今後の財産になればと思えました。引き続きのご活躍を！



関西文化学術研究都市推進機構

田中 照彦 様

素晴らしいイベントを開催してくださり、ありがとうございました。若い才能が輝く、けいはんな学研都市にふさわしい創造性と知識の融合が感じられました。今回の科学コレクションの取組は10年後、20年後に語り継がれるものです。みなさまの今後の活躍に期待します！



株式会社けいはんな

橋本 友美 様

皆さんの新しいものを良いものを生み出すそのパワーがとても魅力的でした。皆さんの様々なアイデアや知恵が光る「けいはんな科学コレクション」。けいはんな学研都市ならではの魅力や最先端の研究をわかりやすく、たくさんの方にその魅力が伝わったと思います！！！！とても貴重な時間をありがとうございました。

▶活動に協力いただいた学研都市の研究者の方より



情報通信研究機構

大竹 清敬 先生

普段、分野の違う学生さんと交流する機会がないため、大変刺激をうけました。私自身も過去を振り返り、未来に目を向け、思いを巡らせる良い機会を得ました。今回の関わりを通して、僅かでもみなさんに貢献できたらうれしいです。



京都府立大学

武田 征士 先生

他の大学生と交流しながらイベントをやり切るというのは、とても貴重でエネルギーのいる事だったと思います。昆虫食の可能性を知ってもらう機会をいただき、どうもありがとうございました。子供の味覚は正直だ！

★研究者リアル対談★



奈良女子大学

久保 博子 先生

大学に取材に来られた時からキラキラした目としっかりした考えと態度に共感し、当日はスムーズで行き届いた運営に感嘆し、楽しく講演させていただきました。この活動の経験は貴重です。これを生かして更に活躍の幅を広げてください！！

★サイエンスレクチャー★



奈良学園大学

前田 吉樹 先生

最初、取材を受けたときは「聞いたことない斬新なイベントだな」と思いましたが、本当に素晴らしいイベントに仕上がっていて驚きました！実行委員会の皆さんの熱意を感じて、私自身もとても励まされました。ありがとうございます。

★研究者リアル対談★



量子科学技術研究開発機構

榎 秦直 先生

学生時代に、第一線で活躍している社会人研究者とざっくばらんにいろんな話ができるということは非常に良い経験になったと思います。社会に出ても、ダイバーシティを意識して、様々な人と触れ合う機会を自分から作ってみてください。

★みんなの交流会★



奈良先端科学技術大学院大学

松原 崇充 先生

「研究者リアル対談」に参加させていただきました。けいはんなが魅力的な学びの場であり続けるために、このようなイベントの重要性を強く感じました。これからも知識と経験を共有し、コミュニティの活性化に貢献できればと思います。

★研究者リアル対談★



奈良文化財研究所

庄田 慎矢 先生

とても新鮮な試みでした。普段会うことのない分野の学生さんとの対話を楽しみました。みなさん、若いうちから進路を一つに決めつけず、広い分野の人々と交流を続けていってください。



奈良先端科学技術大学院大学

渡辺 大輔 先生

お疲れ様でした！学生さん主体の本イベントは、科学の未来を創り出すムーブメントだと思い、楽しく協力させて頂きました。参加者はもちろん、実行委員会のみなさんも、そして私も、想像以上に得るものが大きかったのではないのでしょうか。

★研究者リアル対談★

サイエンスレクチャー/研究者リアル対談

タイトル	【サイエンスレクチャー】 『身の回りの生活環境の健康性に関する研究』	【研究者リアル対談1】 『未来への遺産としての食文化』	【研究者リアル対談2】 『ロボットと人間の未来 ～協働、結婚、友情～』
講師	久保 博子 先生 (奈良女子大学)	武田 征士 先生 (京都府立大学) 渡辺 大輔 先生 (奈良先端科学技術大学院大学)	前田 吉樹 先生 (奈良学園大学) 松原 崇充 先生 (奈良先端科学技術大学院大学)
会場の様子			
講演内容	<ul style="list-style-type: none"> ●研究者になったきっかけ・経緯 ●人工気候室について ●実験手法や実験データ ●中国ウイグル自治区での生活調査について 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己紹介（経歴、学生時代の夢） ●研究内容の紹介 ●現在の食文化に対する課題 ●研究で成し遂げたいこと、解決したいこと ●食文化を受け継いでいくために必要なこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己紹介（経歴、学生時代の夢） ●研究内容の紹介 ●ロボットに必要な要素、求められる要素とは ●思い描く人間とロボットの未来
主な来場者の質問	<ul style="list-style-type: none"> ●入浴や睡眠の実験では、被検者は何人くらい？ ●若い人ならヒートショック（入浴）の実験が可能という話があったが、どのようにデータに出るか？ ●高齢者は節電という理由でエアコンをつけないということもあると思うが、どのように説得するか？ ●サウナでは100℃まで耐えられるが、お風呂は42℃くらいで熱い。これはどういう原理か？ ●全身浴と半身浴でグラフが違うのはなぜか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●奈良漬の美味しさを数字で表すことはできるか？ ●先生方の研究の中で、AIはどのように活用しているか？もしくは有効活用できそうか？ ●昆虫食といったあまり受けいられていない食べ物を世に広める為にどのようなことが大事か？ ●研究を行なっている際にやりがいを感じたり楽しいなどと思うのはどのような時か？ ●人生で最後に食べたいものは何か？ ●今常識としてある食文化の中で、変えたいことは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●ロボットに関する規制や法律はあるか？ ●AIは人間を越えるとどんな影響があると思うか？ ●ロボットに感情が持てるようになって出てくる問題 ●VocaloidのAIが結婚したニュースがあったが、人間とロボットの愛情の進歩であると考えてるか？ ●学校の先生に代わるロボットは近い将来できると思うか？そのためには、どんな技術が必要か？ ●私の将来の夢は医用生体工学の研究者だが、今からでもその夢に近づくための勉強をしたい。どういう行動が夢につながるか？
実行委員メモ	<p>狙い：「研究」について知ってもらいたい。 女性研究者としてのロールモデルを提示したい。 →「子育てと研究」や「研究者としての生活」についても話していただくことができた。</p> <p>ターゲット：高校生</p> <p>工夫した点： ・事前に久保先生と相談し、サーモカメラを持ってきていただいた（久保先生案）。</p>	<p>狙い：共通のテーマに対する、複数の分野の研究者の考え方を知ってもらいたい。 研究者との交流を通じて、自らの進路選択の参考材料に知ってもらいたい。</p> <p>→フードテックやロボティクスといったテーマで専門分野の異なる2人の先生に対談していただいた。「研究者になったきっかけ・経緯」や「研究者という仕事のリアル」についても深掘りした。</p> <p>ターゲット：大学生</p> <p>工夫した点： ・CommentScreenというアプリを活用して、質問しやすく、リアクションが即時に反映できるようにした。 ・対談後に試食会を設けて、参加者と先生方の交流を行えるようにした。</p>	

はじめに

活動
スケジュール

KKC
当日の流れ

作成物
一覧

自己紹介

寄稿文

資料

01 奈良文化財研究所 庄田慎矢

《古代食SDGs：先史・古代の食と調理行動から持続可能性を考える考古生化学的研究》

1

プロフィール



◆肩書
国立文化財機構 奈良文化財研究所 企画調整部 国際遺跡研究室長

◆略歴
-京都大学大学院 人文社会系研究科在学中に韓国に留学。
-2007年、忠南大学大学院 人文学部 考古学科の博士課程を修了、博士取得。
-2009年より奈良文化財研究所の研究員として発掘調査などの業務に従事。
-2014年から2年間、ヨーク大学にて近年注目度の高い考古生化学の研究に携わり
-以後、数々の国際誌に論文を掲載し、食の地域性・多様性を明らかにしてきた。
-2019年、奈良文化財研究所 国際遺跡研究室の室長に就任。

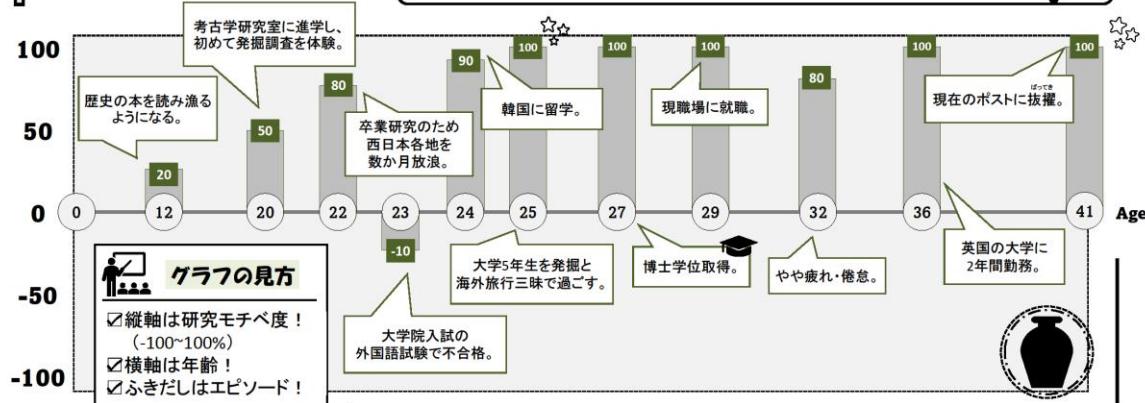


「やらずに後悔するより、
やっつて後悔しよう！」

Dr. Shoda

2

研究者ロードマップ



3

庄田先生にインタビュー Q&A 6選

- Q1 研究の道に進んだ理由は？
A1 子供の頃から歴史が好きだった。自分の好きなフィールドワーク中心の「考古学」と「食」をつなげて、たくさんの人が興味を持つ研究がしたかった。
- Q2 どんな学生生活でしたか？
A2 授業を受けずに、発掘調査のアルバイトをしたり海外を旅行したり。自分で考え、自由に行動することを大切にしていた。
- Q3 研究のモチベーションは？
A3 もっと知りたいという気持ち。予想を立て、結果がそれと違ったときは、「がっかり」ではなく「ワクワク」する。
- Q4 これからの目標は？
A4 昔から「今」を大切にしている。将来のこともあるが、今を楽しみ、今できることをしっかりやり遂げたい。
- Q5 研究者を志す学生や進路に悩む学生にメッセージを！
A5 好きなことをやるのが大事。そして続けることが大切。好きなことがあるなら、やらずに後悔するより、やっつて後悔してください。
- Q6 研究活動と社会との関わりについてのお考えは？
A6 学術的な専門性を追求しすぎると社会から離れてしまうので、たくさんの人に興味を持ってもらえる「柔らかな研究」にも取り組んでいく。

4

インタビューを終えて

とても楽しそうにお話してくれて「好き」という気持ちがすごく伝わりました。「その時その時を大事に生きる」ことで大事なものを見失わずに人生を楽しめる、というメッセージに説得力があり勇気づけられました。

奈良女子大学 修士2年 ももち

「行動力」と「偶然を楽しめる力」の大切さを感じました。好奇心にしたがって、自分で考えて「やらない後悔ではなくやっつて後悔すること」と、キャリアを深く考えるのではなく、「進んだ先でどう楽しめるかが大切」というお話が印象的でした。

京都大学 修士1年 みも

02 奈良先端科学技術大学院大学 渡辺大輔

《次世代発酵・醸造食品をデザインする研究》

1

プロフィール



◆肩書
奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科准教授

◆略歴
-2004年、東京大学大学院新領域創成科学研究科の生命科学専攻を修了し、博士(生命科学)取得。
-国税庁・酒類総合研究所にて酒類行政に携わり、微生物と社会とのつながりを見出す。
-発酵・醸造分野の次世代を担う応用微生物学研究者として注目を集めており、酒造の際に使用する清酒酵母が、高い発酵力を有する原因を世界で初めて解析。
-2021年、奈良先端科学技術大学院大学の准教授となる。

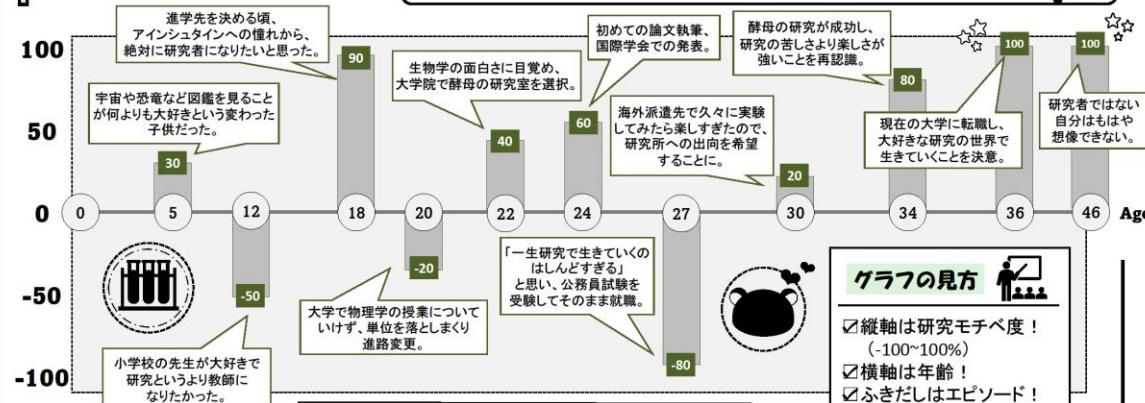


「好きなことを、
広く・深く突き止めたい」

Dr. Watanabe

2

研究者ロードマップ



3

渡辺先生にインタビュー Q&A 6選

- Q1 研究の道に進んだ理由は？
A1 研究が好きで、子供の頃からの興味が大学での専攻に繋がって、バイオの時代の幕開けを目の当たりにしたことで、「酵母」という単細胞生物の謎に挑戦したいと思ったから。
- Q2 研究内容は大学時代の専攻と関係していますか？
A2 大学で酵母の基礎研究を行った後、社会人として国税庁で酒税の経験を積み、社会との関わりを意識。現在は酵母を対象にしたつも、バイオテクノロジー寄りの応用研究を展開できればと思っています。
- Q3 研究活動と社会との関わりについてのお考えは？
A3 酵母を改良して最適なものを作るだけではなく、既存の状態を理解し伝統の理由を解き明かすことを重視。現存している生命こそが進化の完成形と考えるため、伝統と革新の両面を探求している。
- Q4 研究者としての悩みや困っていることはありますか？
A4 研究においては結果がすぐに出ることはなく苦労もあるが、難しい課題に取り組むことで大きな成果が得られるという強い意欲がある。若い頃は周囲からの理解を得られないことが辛かったが、現在は自分の信じる道を突き進むことが何よりも大切という気持ちに変わった。
- Q5 どのような学生が研究に向いていると思いますか？
A5 柔軟性があり、異なる視点やアプローチに対して受け入れ態勢を築けることが重要。既存概念にとらわれず、自分がこの課題を解決してみせようという強い意志と実行力が研究の成功に繋がる。
- Q6 科学情報を入手する際、よく使用する媒体は？
A6 Youtubeのゆっくり解説を見て、情報を得たり講義の参考にしている。

4

インタビューを終えて

とても興味深い経歴を聞かせていただきました。「色々な考え方があっていいけれど、人が好き勝手にいじってしまっているものが生まれるとは思わない。ありのままが素晴らしい。その進化の完成形を解き明かしたい。」とおっしゃっていたことが心に残りました。

京都府立大学 学部2年 なべ

「好きなこと」を「続ける」ことが大切なのだと感じました。酵母が好きで研究に戻ってきた先生の、研究への姿勢や進路へのメッセージを聞いて良かったです。「続けていければ研究者で、続けることが大切」という言葉が1番印象に残りました。

京都大学 修士1年 みも

05 奈良先端科学技術大学院大学 松原崇充

《機械学習によるロボット・機械・プラントの自動運転化に関する研究》

1

プロフィール



◆肩書
奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授

◆略歴
-2007年、奈良先端科学技術大学院大学の情報科学研究科博士課程を修了。
-2019年1月より先端科学技術研究科情報科学領域と連携し、機械学習とロボティクスの融合領域であるロボットラーニング技術とその実世界応用に関する研究に携わる。
-2022年、奈良先端科学技術大学院大学の教授となる。



「好きなことをやる、

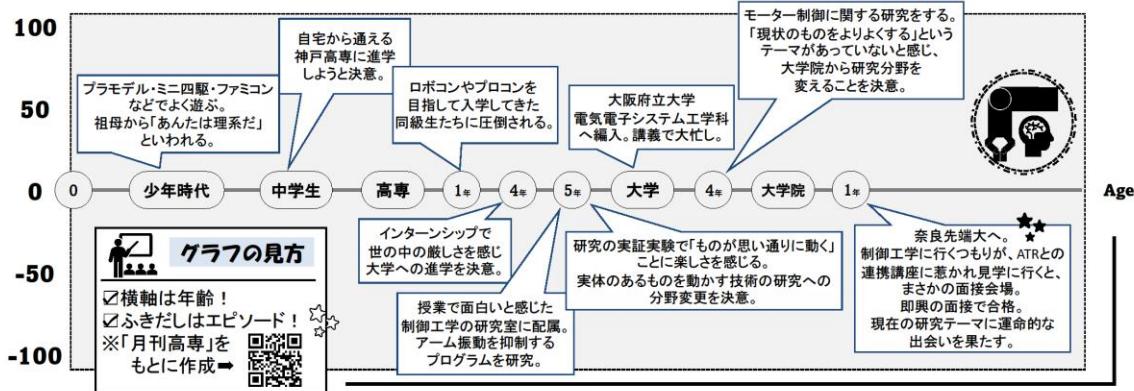
続けたいことをやる。」

Dr. Matsubara

2

研究者ロードマップ

なぜ、どのようにして研究者の道へ?



3

松原先生にインタビュー Q&A 6選

- Q1 研究の道に進んだ理由は?
A1 30代半ばになり、初めて夢中になれるテーマとしてロボットラーニングに出会う。様々な分野を渡り歩きながらも、留学先でAIの勉強をきっかけにロボットの具体的な作業に魅力を感じ、現在の方針が回る。
- Q2 どんな学生生活でしたか?
A2 学生時代は真剣に学ぶよりも様々なアルバイトに明け暮れ、高専では専攻を変えつつも大学院で再び情報学を学び、興味を持って取り組む姿勢を身につけた。
- Q3 研究のモチベーションは?
A3 夢中になれる研究を追求し、自分らしいアプローチで意義ある分野に取り組みたい。AIロボット分野のトレンドに注意しつつも、自身の本当にやりたいことを見つけてモチベーションを維持する。
- Q4 研究者としての悩みや困っているのは?
A4 30代半ばまで研究者になることを決めておらず、高専では就職を考えていたが、企業インターンで進学の重要性に気づき、大学進学を選択。研究者としての道に進む中、スランプも経験し、イギリス留学で新しい視点を得て自分らしい研究と分野への貢献に悩む。
- Q5 研究者を志す学生や進路に悩む学生にメッセージを!
A5 夢中になれることを早く見つけることも大切だが、見つからない場合は粘り強く探し続け、必要なら方針を変えることも考える。
- Q6 研究活動と社会との関わりについてのお考えは?
A6 アカデミアと社会の関係は、「付かず離れず」よりも適切な距離感が必要。「付いたり、離れたたり」が良いとの考えで、例えば10年サイクルでの交流が重要。

4

実行委員メンバーからの感想/インタビューを終えて

流されそうになった時は自分がやりたいと思って始めた原点を思い返すということや、やりたいことが早く見つからなくても興味があるところからちょっとずつスライドしていくことで本当にやりたいことを見つけるというアドバイスから、自分のやりたいことを明確にすることが研究生活にとって大事なんだと感じた。

奈良先端科学技術大学院大学 博士3年 中村

「行動力」と「偶然を楽しめる力」の大切さを感じました。好奇心にしたがって、自分で考えて「やらない後悔ではなくやって後悔すること」と、キャリアを深く考えるのではなく、「進んだ先でどう楽しめるかが大切」というお話が印象的でした。

京都大学 学部4年 ヒロキ

06 奈良女子大学 久保博子

《健康で快適な生活を創造するための環境を備えた住環境について》

1

プロフィール



◆肩書
奈良女子大学副学長、学術情報センター長、研究企画室長、工学部工学科教授

◆略歴
-1986年から1993年にかけて、奈良女子大学家政学部住居学科助手を勤める。
-その後、1993年に奈良女子大学生活環境学部 助手となる。
-1997年からは、奈良女子大学生活環境学部 助教授となり、
-2014年に奈良女子大学生活環境学部 教授を経て、
-2020年04月から、奈良女子大学工学部工学科の教授を勤めている。



「知りたいと思ったことを

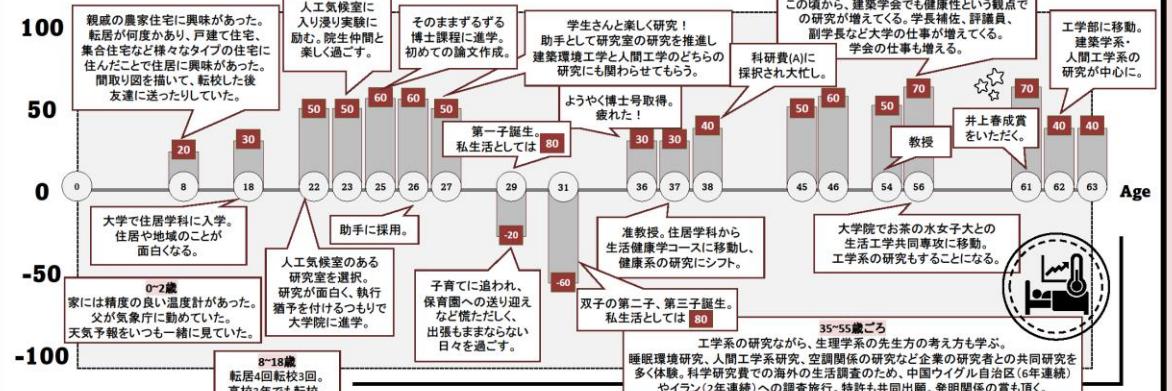
研究することは楽しい」

Dr. Kubo

2

研究者ロードマップ

なぜ、どのようにして研究者の道へ?



3

久保先生にインタビュー Q&A 6選

- Q1 研究の道に進んだ理由は?
A1 親の仕事の都合で引っ越しが多く「家」に興味を持った。大学では「住居学科」を専攻し、新しい「人工気候室」ができたことを知ったことで当時の研究室に配属を決めた。
- Q2 研究者としての悩みや困っていることは?
A2 ①高齢者は研究に被験者として呼びやすいが、男子・中年被験者は来てくれる方が少ない。②昔は実験に使う機械が大きく調査に持って行くのに苦労したが、現在は小型化し解決した。
- Q3 研究のモチベーションは?
A3 身近で感じた疑問をすぐに実験や調査で結果が分かる楽しさがモチベーション。また女子大で女性の先生をすることにより学生の「ロールモデル」となることに価値を感じている。
- Q4 研究をおこなう上で、環境が相応しい環境とは?
A4 人、お金、設備が整っている環境。一番は人との関係。居心地が悪いと続かない。
- Q5 研究者を志す学生や進路に悩む学生にメッセージを!
A5 興味があることがあればやった方がいいし、知りたいと思ったことを研究することは楽しい。色々なところに顔を出すことや、視野を広く持つことも大事。
- Q6 研究活動と社会との関わりについてのお考えは?
A6 「これを知りたい!」と思ったことを実験すると何から社会とは繋がると思う。身近な生活について知りたくて研究しているので、配慮が必要となるけれど、人間を対象とした実験や調査をすべきだと思っている。

4

実行委員メンバーからの感想/インタビューを終えて

同じ女性の研究者からのお話や女子大ならではの話しも聞いてとても参考になりました。仕事と家庭の両立は難しいけれど成立している姿は理想的です。お邪魔させていただきました。実験室も興味深かったです。

奈良女子大学 修士2年 ももち

先生が気さくな方で自身の研究の話をして頂いている際に本当に楽しそうでもこちらにも楽しさが伝わってきた。こういった方が、自然と導かれるように研究者になれるのかなと思ひ、真剣に取り組む姿勢とともに自分も楽しんで興味をもつというのが同様に大事な事であるんだろうなと感じた。

京都大学 学部4年 ヒロキ

けいはんな科学コレクション-KKC- ～実行委員会のあゆみ【要約版】～

【日時: 2024.3.20 10:00~16:00】 【開催地: 国際高等研究所】

実行委員会は関西にある8大学から集まった16名のメンバーで構成されています。

「学ぶことの楽しさを発見し、未知を探究する喜び等を思い出してもらうこと」

「けいはんなの研究を知ってもらうこと」を目的に、中学生～大学生向けにイベントを開催しました。

0

事前活動

KKC開催までの約半年間、**京都スマートシティエキスポ**や**研究者インタビュー**等にも参加しながら、会議を重ねました。



実験室の見学もさせていただきました

1

サイエンス レクチャー

久保先生をお呼びして、講演会を開催しました。**学生を中心に、幅広い世代の方が**来てくださりました。



とても楽しい時間となりました

2

研究者 リアル対談

研究の未来と、研究者という仕事の魅力について、引き出そうとしました。質疑も活発で、良い対談となりました。



奈良漬けと昆虫食の試食会も行いました

3

みんなの交流会

リラックスした雰囲気を作り出し、**先生方と参加者のコミュニケーション**も実現できました。



先生方のおすすめの本も配置しました

4

研究者紹介 パネル

「**研究者をもっと身近に**」というテーマのもと進めました。先生方の協力のおかげで見ごたえのある内容になりました。



Youtubeの紹介動画も流していました



「学生の学生による学生のための教養講座」 実行委員会メンバーについて

今まで、学生だけが、若者だけが、自分たちで一から何かを創り上げる機会が中々なく、自分の分野や決められた枠の中でしか活動できなかった。この機会を通じ「大学生・大学院生」という共通項をもつ自分たちが、一からイベントを企画して創り上げる経験をしたという熱意から集まったメンバー。

イベント開催の目的

学ぶことの楽しさを発見し、未知を探究する喜びと身の回りに知識が溢れていることを思い出してもらうこと。
けいはんなの研究を知ってもらうこと。

▶ 実行委員会メンバーの感想

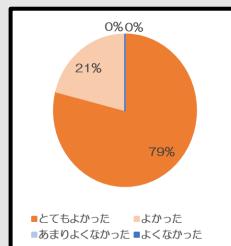
このような活動が初めてメンバーも多かったですが、イベントの企画に携われたことで主体性やチームワーク力を鍛えることができ、一緒に向上していける仲間ができました。



第2回ミーティングの様子→

▶ 来場者からの声

「よく前を通る時に何をしているところなのかなあと思っていたので、見学できて良かったです。」や、「ロボットや昆虫食の見方が変わった。」等の感想をいただきました。



来場者アンケート結果から→

▶ 作成したもの

広告チラシ、特典・記念品、POPカード、プログラム・マップ、各コンテンツに必要なものを作成しました。デザイン等も私たちが協力しながら行いました。



作成物の例 (KKC!クイズ) →

▶ メディア関連

本活動について、新聞やテレビ局にも取り上げていただきました。国際高等研究所のSNSでも情報を発信しています。



2024/3/29 -KCJN京都-
週刊地域トピックス→

お問い合わせ先

公益財団法人 国際高等研究所
〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

TEL:0774-73-4000 FAX:0774-73-4005

編集: 「学生の学生による学生のための教養講座」 実行委員会



@IIAS_LINE



@IIAS.JP.OFFICIAL



@IIAS_KKC

